

平成 26 年度第 2 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 26 年 11 月 28 日（金）午後 5 時～7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

柴田委員、高松委員、田中委員、田峰委員、長澤委員

事務局出席者

松浦（校長）、繁内（教頭）、藤井（首席）、宮内（教諭・進路指導主事）

岡本（教諭・3 年主任）、吉田（教諭・2 年主任）、川村（教諭・1 年主任）

山崎（教諭・生徒会主担）

I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 本校の現状報告（宮内、山崎、藤井）

- ・進路マップ実施状況と「夢実塾（ゆめみじゅく）」について
- ・26 年度「つばさコレクション」について
- ・ユネスコスクール世界大会について

(3) 保護者からの意見について

(4) 質疑・応答

内容

< 挨拶 >

校長より ダンス部・・・ダンスドリル選手権全国大会 4 位

演劇部・・・近畿大会出場決定（12 月 27 日出演予定）

台湾の高校生（国立竹東高級中學）との交流実施（11 月 6 日（木））

1 年生女子生徒・・・バトントワリング世界大会出場の茨木市表彰式（本日）

< 現状報告 1 >

進路マップの実施状況と夢実塾について説明（宮内）

ベネッセの進路マップを年 2 回実施（1、2 年）、3 年は進路マップ 1 回と実力診断テストを実施している。進路マップは A～D の四段階に区分されている。A は難関大学に合格するレベル、D は義務教育段階の知識が十分には身につけていないレベル。

3 年生では、全体的に D が多いが、英語は C が多くなっている。

2 年生は昨年度学び直しに力を入れているため、D が少なくなっている。この秋から Z 会の英語進路講座を始めている。参加生徒は約 50 名。

1 年生は 1 回目に比べ 2 回目は C 以上が増えている。特に数学の A 段階が 11 名と、二けたになった。この学年は、朝の学習を週 3 回、放課後の進学講習は 1 学期から始めている。

進学講習を受講する生徒は増える傾向にあるが、例年よく勉強する生徒が3年生の夏休み終わり頃から、AO入試や指定校推薦などで早く進学先を決めることが多い。本校としては、生徒がもう少し自分の可能性を広げることができればと考えているが、一般入試まで粘ろうとする生徒は少ない。

そこで、10月30日に京都造形芸術大学の吉田大作先生を招いて、キャリアデザインについて1年生向け講義をしてもらい、考え方の具体的在り様を話してもらった。例えば、なんとなく大学へ行っている学生は就職がなかなか決まらない。これは一流と言われている大学でも一緒。また、ケータイ・スマホ・ゲームに多くの時間を使ったり、口癖で「無理」「苦手」と言う学生はものの考え方や時間の使い方を改め、「楽しい」「やってみよう」という意識で時間を取り戻そうというような話の内容だった。

少人数の生徒に内容の深い話をするのが効果的ということで、本校に月1回来校を願う。11月20日に行った生徒向け夢実塾説明会の参加者は10名だった。前向きに目標に向かって行動できる力を育てたい。

委員：

○吉田氏が生徒に話をするときは教員も付くのか。

事務局：

・付きます。事前の打ち合わせもします。

委員：

○高校時代、学校と家庭以外で大人と付き合うことはまずない。私は地元の子どもを集めて勉強を教えているが、親や学校の先生に本当の自分を見せていない。しっかりしている子どもが、母親が迎えに来ると急に甘えだす。何をどうやって学ぶのか、それを学ぶため大人と接する機会があればいい。高校の同級生はある意味競争相手なので、友達に自分がどうやって勉強しているかはっきり言わない。私のやっている寺子屋に来て教える手伝いをしてくれている学生たちは、本当によく勉強をしている。よく勉強するということがどういうことか知るだけでもいい刺激になる。

委員：

○がんばらないでも行ける大学受験に逃げる生徒は多い。それで勉強が不十分だから、就職できずドロップアウトしている。子どもたちの夢といっても漠然としている子もいるだろう。夢実塾という名称は子どもにわかりにくいのではないか。10人くらいではトーンダウンする可能性がある。保護者を巻き込むことはできないか。いろいろな保護者の意見が子どもに伝わるのではないか。

委員：

○人とかかわった分、生徒の社会性は成長していく。私の場合、子どもといろんな話をしていく。長男は高校生ときせめてこのランクの大学に行きたいという目標があった。大学に入り、自主的に講座を選び、人との関わりの中で成長している。長女は高校3年だが、進路志望があいまいで、はじめ保育系の学校へ行きたいと言っていたが、方向転換して芸術大学に決めた。がんばってこれがしたいと選ぶのがいい学校。偏差値ではない。合格が決まってから、大学の課題でボランティア活動を企画して協力者を得て実行することになった。そうやって外にでていくことが大事。

夢実塾はいいと思うが、講師の先生に丸投げにならないようにしてほしい。高校生にとっては講座の内容に興味を持てるかが重要。

委員：

○私は追手門学院大学で講師をしているが、北摂つばさ高校出身の追大生のうち、とても目的意識の高い学生二人を知っている。追大の1年生に対するオリエンテーションは15回、なぜ大学へ来たのか、4年間どうやって過ごすのか、あなたは何者かなど徹底してやっている。私はタイの学校にもつながりがあるが、タイの高校生は元気があるが学生は枠にはまっている感じがする。日本の高校生は一步引いている感があるが、大学生は明るい。

委員：

○中学生の保護者で、高校を大学進学率などで選ぶ保護者は少なくなっている。サッカーや野球など、高校の特徴に特化して行こうとする生徒が多くなっている。早く進学先を決めたい生徒は前期入試で落ちれば私学へ行く。後期入試は受けない。中学生で将来的目標を持っている子は少ない。経験が少ないから、考えが限定的である。もっといろんな経験をさせてやりたい。つばさ高校の東北復興支援ボランティアなどいい取り組みだと思う。

事務局：

- ・経験を積まずのが大事だと思います。

<現状報告2>

つばさコレクションについて（山崎）

本校では毎年、3年生を中心にエリア等の学習の成果を発表する「つばさコレクション」を1月に実施している。生徒たちはまさしく体験を通して学んでいる。3年生の早い段階で進路が決まった生徒も、残りの高校生活を充実して勉強に励めるよう、この行事の準備でがんばらせている。生徒にとってとても大事な行事である。今回は展示部

門が1月9日(金)・10日(土)、ステージ部門が1月10日、どちらも茨木市民会館で行う。ご都合が許せば、委員の出席をお願いしたい。

<現状報告3>

ユネスコスクール世界大会等について(藤井)

- ・ことし岡山市で11月6日、7日にユネスコスクールに所属する高校生の世界大会が、8日に大人対象の世界大会が開かれたが、本校生徒5人がスタッフとして参加した。
- ・来年7月に実施する気仙沼現地ボランティアの参加申し込み者が43名となった。はじめてバス2台で出かけることになる。また、ESDパスポートに記載するボランティア活動30ボランティア達成者に対する表彰が昨年度は4人だったが、今年は11人に増えた。外へ出かけて体験を積ますことを今後も積極的に進めていく。

事務局：

- ・本日は、校長が生徒の表彰式に出席するため、テーマを夢実塾に絞ってご意見をいただいた。第3回の協議会で経過報告を予定している。次回は、1月末か2月初めになる予定。

<その他>

保護者からの意見・・・なし